



厭蝕太平樂記

二拾五

~ 13
3553
25



門 13
號 3553
卷 25



平樂就老以括入

目錄

一 平樂就老以括入

一 長安我郎子位

一 長安我郎子位

一 長安我郎子位

一 長安我郎子位

早稻田大學圖書館
昭 33.11.10 發
藏 書

[Faint, illegible text in the right-hand column, possibly bleed-through from the reverse side.]

厭能今年樂就卷之廿八

し多の志去年討死を事

系 船流任古の山野也る文

東國路を船場をさるるに後世他馬さとのこと

して何れを海をさるるにけね余の海を

ふ田を文後以て流をさるるにけね流をさるるに

まを流をさるるにけね他馬をさるるにけね

まを流をさるるにけねかたをさるるにけね

まを流をさるるにけね物にたをさるるにけね

天竺集詩卷之二十三

母が絶る是種の年々もあやふしく申すは
母れと申すは十た又りありまはるは
うへに申すは一人を世にまよいらるは
神もあはるはあはるはあはるはあはるは
お具たあはるはあはるはあはるはあはるは
他馬もあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは

行るはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは
あはるはあはるはあはるはあはるはあはるは

石蔵へ押せし中平と六平は打り
 收じし頃一の相承をぬり流し置りて
 押せし女はいふまじにあらしき事あり
 糸の女知らるしやする由は又一目の流し置り
 打ちし者一魂をたし人なる悲しき事あり
 流し置るに任じし女は又一目の流し置り
 流し置と姑しして流し置りし
 なる悲しき事あり
 打ちし者一魂をたし人なる悲しき事あり
 流し置るに任じし女は又一目の流し置り

可し流し置るに任じし女は又一目の流し置り
 流し置と姑しして流し置りし
 なる悲しき事あり
 打ちし者一魂をたし人なる悲しき事あり
 流し置るに任じし女は又一目の流し置り
 流し置と姑しして流し置りし
 なる悲しき事あり
 打ちし者一魂をたし人なる悲しき事あり
 流し置るに任じし女は又一目の流し置り
 流し置と姑しして流し置りし
 なる悲しき事あり
 打ちし者一魂をたし人なる悲しき事あり
 流し置るに任じし女は又一目の流し置り

大世中より鳥之橋中... 打てかゝるしゆり
世中と云ふは世を合致しり多の波の海に人
世中と云ふは世を合致しり多の波の海に人
世中と云ふは世を合致しり多の波の海に人
世中と云ふは世を合致しり多の波の海に人
世中と云ふは世を合致しり多の波の海に人
世中と云ふは世を合致しり多の波の海に人
世中と云ふは世を合致しり多の波の海に人
世中と云ふは世を合致しり多の波の海に人
世中と云ふは世を合致しり多の波の海に人
世中と云ふは世を合致しり多の波の海に人

乃を考へしす... 思ひをせしむる事村
是と云ふに相違なく... 昔はあつし
小なりとも... 子磨りし人ふを傳へん
と云ふ事... せしむる事... 人の心も
世といふは... 世を合致しり多の波の海に人
世といふは... 世を合致しり多の波の海に人
世といふは... 世を合致しり多の波の海に人
世といふは... 世を合致しり多の波の海に人
世といふは... 世を合致しり多の波の海に人
世といふは... 世を合致しり多の波の海に人
世といふは... 世を合致しり多の波の海に人
世といふは... 世を合致しり多の波の海に人
世といふは... 世を合致しり多の波の海に人
世といふは... 世を合致しり多の波の海に人

付たすむる多し又教おしむる人ぬを討
てせし我しむるあはれはほも思ひぬれ也
ぬ殺す人ぬは後と後今別と身を取
くくくおかくなれともせしうらへし後を
く徳もあつたふれまふ下人ぬ皆われを
る人ぬをもすむんぬれす死す我命下
りもむありしとむくぬ多忠朝の徳を
きくはあふりぬとぬ村を討たぬを
はる上使ふ今我しむるあはれぬ人ぬ

方はあしとせし新くくくく南門の場
ぬ及ぬとくくく南門の場ぬとて
このあつたぬの徳も思ひぬれ也
ぬ殺す人ぬは後と後今別と身を取
くくくおかくなれともせしうらへし後を
く徳もあつたふれまふ下人ぬ皆われを
る人ぬをもすむんぬれす死す我命下
りもむありしとむくぬ多忠朝の徳を
きくはあふりぬとぬ村を討たぬを
はる上使ふ今我しむるあはれぬ人ぬ

中業を―首を返されしにきまはるる所
 せば新将軍のふりおけり兵を以てねとすむ
 下らんとせし声もあつた昔も又の心をな
 らぬ切に今も又の心は宿願のいふもと
 心をあやしき兵をとりおめりとのいふ
 法を以てけ実に入るとすむおまの心同が
 能をえんとはよい相續をせらせむいふの
 心相が首より相續をせらせむ又輝の
 心と山深津の心と―昔も又の心をな

中業を―首を返されしにきまはるる所
 せば新将軍のふりおけり兵を以てねとすむ
 下らんとせし声もあつた昔も又の心をな
 らぬ切に今も又の心は宿願のいふもと
 心をあやしき兵をとりおめりとのいふ
 法を以てけ実に入るとすむおまの心同が
 能をえんとはよい相續をせらせむいふの
 心相が首より相續をせらせむ又輝の
 心と山深津の心と―昔も又の心をな

かきしち〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
朱の和しおのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
及おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜

おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜
おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜おのり〜

お入くはらぬをばらうと云ふ西をいふ人
將領ゆをせりしは切付せし申さるるは
此物よふ人の家来は切敷しは切付をせ
きをえしは切敷の行なりは切敷なり
又大蛇人なるれは切合しは切敷なり
又よか切しは切合しは切敷なり
くせるは切敷の行なりは切敷なり
また切敷の行なりは切敷なり
また切敷の行なりは切敷なり
また切敷の行なりは切敷なり

今あをばらぬと云ふは切敷の行なり
は切敷の行なりは切敷なり
また切敷の行なりは切敷なり
また切敷の行なりは切敷なり
また切敷の行なりは切敷なり
また切敷の行なりは切敷なり
また切敷の行なりは切敷なり
また切敷の行なりは切敷なり
また切敷の行なりは切敷なり
また切敷の行なりは切敷なり

此の按の如く河内を記したるその後念ふ
城牙のまきのの境の志ら成射今又我を城
下及の遊をききしはかのたせし
中きよのりしとて人ゆえんをなす
ことしををきくはしきるは才成の
無人中をくまの首を取らたれん
是地あり首を取らぬ事あり
首を取らぬ事あり
くせのゆへに中をくまの首を取らたれん
九の首を取らたれん

長男我の子はたはた

長男我の子はたはた

幸村が多岐城を攻めし事ら
人ねは定かると馬津の途の
道を如く我れは討たせし
清光は身をいしとて人へ
その日の首をたてしとて
挺をかくるは挺をかくる
らるは挺をかくるは挺をかくる

乃河内子兵八卷曰... 迎成... 河内... 乃河内子兵八卷曰... 迎成... 河内... 乃河内子兵八卷曰... 迎成... 河内...

を城... 乃河内子兵八卷曰... 迎成... 河内... 乃河内子兵八卷曰... 迎成... 河内...

つりたのちもさるるに... 徳水なるもの何れも... 松村と命と合はれ... 討つるも敵の國果の程も... へんは... 徳水なるもの何れも... 松村と命と合はれ... 討つるも敵の國果の程も... へんは...

徳水なるもの何れも... 松村と命と合はれ... 討つるも敵の國果の程も... へんは... 徳水なるもの何れも... 松村と命と合はれ... 討つるも敵の國果の程も... へんは...

ありしもの勢を運まわりて一々調しらむ者なり。世に
 卷田まきありて遠國とほくにの田を耕はらう。是れ耕作かうくわの
 利ありて、人々より好よしむ。是れ耕作かうくわの利ありて、
 人々より好よしむ。是れ耕作かうくわの利ありて、人々より好よしむ。
 人々より好よしむ。是れ耕作かうくわの利ありて、人々より好よしむ。
 人々より好よしむ。是れ耕作かうくわの利ありて、人々より好よしむ。
 人々より好よしむ。是れ耕作かうくわの利ありて、人々より好よしむ。
 人々より好よしむ。是れ耕作かうくわの利ありて、人々より好よしむ。
 人々より好よしむ。是れ耕作かうくわの利ありて、人々より好よしむ。
 人々より好よしむ。是れ耕作かうくわの利ありて、人々より好よしむ。

知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを
 知りしものを進すすみ、一々ひと一々ひとしりしものを

一書方ハ定中ノ命を惜む人ト云々想の
はる厚き得命入まの早交を致し偽りを去
るいあふ神人を喜ぶ付さ付んかそをりもす
れを登付せし去年より別の命を致れ
ても命を惜むるや世を正ねのゆふゆ
るを致し罪人のせしめでも下を置を
とあてりる人の方をゆえんも人白欲せり
使原ふるよりさくさく務真せしゆ
つしとあてりて扱けれをば後及ぶもつしと

菊条は四葉に因記をいしりしは後叙す
定中なるもかてしむ得命と信せし
あし我のそ信長らの如くももか命し
あさぬし諸命入すすからぬ
えりし山本も急物信長人折る
よきあてりしりしと方もんは正
あてりし声なきをいしりしを
あてりし声なきをいしりしを
あてりし声なきをいしりしを
あてりし声なきをいしりしを

は出抱らるれん海(うみ)の世(よ)ららぬ...
ゆらぬ世(よ)なる法(ほ)法(ほ)の世(よ)を...
壁(かべ)山(やま)木(き)物(もの)の世(よ)に...
記(し)のよき世(よ)に...
うかぬ世(よ)に...
命(いのち)を...
海(うみ)の世(よ)に...
波(なみ)のよき世(よ)に...
首(くび)を...

海(うみ)の世(よ)に...
情(なさけ)の世(よ)に...
世(よ)の世(よ)に...
ほらぬ世(よ)に...
まらぬ世(よ)に...
世(よ)の世(よ)に...
世(よ)の世(よ)に...
世(よ)の世(よ)に...
世(よ)の世(よ)に...

行物の美を功の偉人より後母を授け
遊あつる人物の房々遊りてあつた海
我州の美を授けくもあつた又州の美を
海を授けりてせむきりて授けりて
人々々々々々々々々々々々々々々々
とて其類を浩制しかねるもあつた
うはあつたあつたあつたあつた
むとあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

行物の美を功の偉人より後母を授け
遊あつる人物の房々遊りてあつた海
我州の美を授けくもあつた又州の美を
海を授けりてせむきりて授けりて
人々々々々々々々々々々々々々々々
とて其類を浩制しかねるもあつた
うはあつたあつたあつたあつた
むとあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

太平御記卷之二十一 二十

力を盡ししよりよるおかしき人ともなはるる事
 海に漂ふ所はあはれむとていふはあはれむ事
 なる事やとていふはあはれむ事
 入る事やとていふはあはれむ事
 及ぶ事やとていふはあはれむ事
 とも九世の事やとていふはあはれむ事
 なる事やとていふはあはれむ事
 入る事やとていふはあはれむ事
 及ぶ事やとていふはあはれむ事
 とも九世の事やとていふはあはれむ事
 なる事やとていふはあはれむ事
 入る事やとていふはあはれむ事
 及ぶ事やとていふはあはれむ事

音も七事九の事やとていふはあはれむ事
 なる事やとていふはあはれむ事
 入る事やとていふはあはれむ事
 及ぶ事やとていふはあはれむ事
 とも九世の事やとていふはあはれむ事
 なる事やとていふはあはれむ事
 入る事やとていふはあはれむ事
 及ぶ事やとていふはあはれむ事
 とも九世の事やとていふはあはれむ事
 なる事やとていふはあはれむ事
 入る事やとていふはあはれむ事
 及ぶ事やとていふはあはれむ事

友新なることをしるす京の傳りて色を
去るし鉄やて切原の川よ小宮島守り
そとよ取巻て一むき丸を流しより入甲此
をよとてく我の作の能くまよとい物不
る〜河丸す是分ちよあさい押する
け時城を火の伝をよ入史記傳の右の傳りて
と名月人取た運〜と〜人方河月紙者
を他る一取ら道下人とし流る〜川運は
乃信一の傳りて打なり内伝なる其も同じ

事あり角又河月を江〜人取ら取ら又
の形をとりななる坂曲なるをよ〜款
清く神也此流流をよ〜地入所も
け陳法をよ〜とよの取値を破る案

廣雅を平樂記卷之三十一

Handwritten musical notation in a cursive style, consisting of approximately 12 horizontal lines of rhythmic and melodic symbols.

Handwritten musical notation in a cursive style, consisting of approximately 12 horizontal lines of rhythmic and melodic symbols, mirroring the notation on the opposite page.

Handwritten text in a highly stylized cursive script (草書) filling the page. The characters are dense and difficult to decipher, but appear to be organized into vertical columns. The text is enclosed in a rectangular border.

符子
卷之...

